

学童保育における学習支援活動を通じた 学習態度の改善過程

○市本早香¹・井城戸海輝¹・富田英司²

(¹愛媛大学大学院教育学研究科・²愛媛大学教育学部)

問題と目的

近年、様々な家庭背景によって、学童保育の需要はますます高まっている。学童保育は、厚生労働省が所管する「放課後児童健全育成事業」の通称であり、保護者が働いている間、児童が安全で充実した生活を送れるような場を与える役割を担っている（全国学童保育連絡協議会，2015）。学校現場において児童の学習のニーズが多様化していることから、家庭学習の支援の需要は高い。

本研究では、学童保育に通う児童を対象とした放課後の学習支援において、学生の支援員（以下、学生支援員）の話し合いで提案された改善案を実行することによって、児童の学習態度がどのように変化してきたかを調査し、学習態度の改善過程を検討することを目的とする。

方法

研究の手法 学習支援における課題解決のプロセスを研究の対象とするため、アクションリサーチの手法を用いて分析を行うこととした。

手順 学生支援員による学習支援の活動を実施→カンファレンスによる振り返り→改善に向けた介入、という循環的なアプローチを行う。

支援の対象 学習支援のニーズを抱えているA児童クラブの児童30名（人数は毎回異なる）

支援する者 B大学の学生支援員の8名（交代制）

活動期間 A児童クラブでの学習支援は、2016年4月下旬の立ち上げ後、7月から活動を開始している。本研究は、5月から9月までの取り組みについて報告する。

結果と考察

本研究では、学生支援員が実施、振り返り、改善というサイクルに基づいて支援方法の修正を行い、学童保育における学習中の児童の行動の変化について検討を行なった。

振り返りの場の設定について

学生支援員が活動報告を記入することを目的として、振り返りのフォーム（「支援活動の全体についての課題だと思うこと」等の3項目）を設けて

いたが、フォームでは互いの意見を交換することが難しかった。しかし、活動時間外の会話の中で学習支援の内容が話題となり、学生支援員と指導教員が相談の上、定期的な話し合いの場を設定する事ができた。現在、話し合いは週1回、学生支援員と指導教員のみで開催し、活動上の課題や今後の対応について検討を行っている。話し合いで議論された学習中の課題については、個別ではなく児童全体に向けて取り組みを行ない、児童が適応しやすい環境に向けて修正を行うこととした。

課題の焦点化と修正の提案・実施

話し合いでは、児童の学習に適さない行動が生じる要因を焦点化し、学習室内の掲示や児童の行動の流れの設定といった点についての具体的な提案や改善案を検討した。実際に導入した結果、児童が学習を開始するまでの時間が短縮され、学生支援員の声かけの負担も軽減した。また、学生支援員に児童の次の行動を質問する回数が減少し、自ら行動する傾向が見られるようになった（Table 1）。

Table 1

課題カテゴリ	課題の焦点化 (話し合い)	導入提案 (話し合い)	導入結果 (学習活動)
学習時のルール の掲示	・学習のルールとして設定している「3つのやくそく」（しゃべらない・いなくなる・こわさない）が児童にも学生支援員にも意識されていない。	「3つのやくそく」の掲示の配置と形を変更する。	(児童) 改善後の掲示物を使用して、互いに注意し合う。 (学生支援員) ルールの紙を見せながら指導することで、注意の時間が軽減された。
名札の受け渡し と回収	・名札のひもが絡まっているときに、児童が騒がしくなる。 ・名札を自分で片付けない。 ・名札を忘れて来たり、帰ったりする。	・受け渡しと回収の場所を学習室に変更する。 ・学習室の出入り口付近に各学年の回収箱を作製・設置する。	名札のひもを無くす。 紐が絡まった時の騒がしさを名札を渡すときの時間が軽減された。 ・名札を自分で箱に返しに行く行動が多く見られるようになった。 ・名札が無くならない、忘れることが減少した。
名札を受け取る ときに、喧嘩や遊 び、おしゃべりが 始まる。		学習室の入り口で、各学年で整理してから名札の受け取りを行う。	順番を守って、もらった人から座るという流れができた。
名札を渡すときに シールを貼って いたが、シールを 選んだり、取り 合ったりして学習 開始が遅れる。		学習終了後にご褒美シールを貼る。	(児童) 名札の受け取り後にすぐ学習を開始することができた。 (学生支援員) シール貼るときに、学習の取り組みについて個別に話を聞く機会ができた。
学習室への移動	児童クラブで遊んだり、児童クラブから走ったりして来るので、学習室に来て学習への意識が向いていない。 整理の指示が毎回異なるなど、児童が混乱する。	・児童を整理させてから移動する。 ・学生支援員向けに「移動マニュアル」を作成する。 ・移動マニュアルは、児童クラブで整理してから学習室に入室までの指示の仕方や流れを明記する。	(児童) 学習室に入室後、はじめに少し私語をするが、走り回ったり叫んだりという行動は無く、静かに学習するようになった。 (学生支援員) 整理の指示が苦手な学生がマニュアルを使用したところ、移動の流れのイメージができて、指示の時に慌てたり緊張したりすることが軽減され、以前よりも落ち着いてきた。

引用文献

全国学童保育連絡協議会 (2015). 学童保育ハンドブック 第2次改訂版, ぎょうせい